

米ナスのロックウール栽培における適正マグネシウム濃度

「高知方式湛液型ロックウールシステム」における米ナスの栽培については、本システムへの適合性は高いものの、マグネシウム欠乏症の発生や栽培後半の樹勢低下等の問題がありました。

また、これまでの試験では慣行の専用肥料を用いた山崎ナス処方準拠 1.0 単位（マグネシウム 2.5me/l）に対し、マグネシウムを 3.7me/l まで増量することにより、収量が増加するとともにマグネシウム欠乏症の軽減効果が認められました。しかし、この培養液濃度はカリウム濃度が比較的高いため（7.4me/l）、栽培用ロックウールにカリウムが過剰に集積しました。

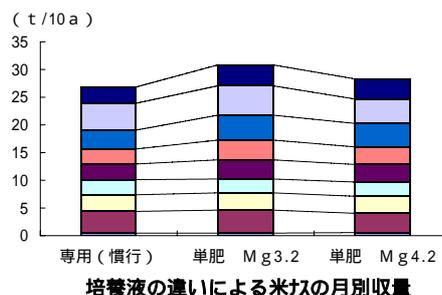
そこで、専用肥料を用いた 1.0 単位に対し、カリウム 6.5me/l、マグネシウム 3.2 および 4.2me/l とした単肥配合について検討しました。その結果、マグネシウム欠乏症についてはいずれの単肥配合でも軽減効果がみられました。総収量はマグネシウム 3.2me/l が最も多く、ついで 4.2me/l となりました。



専用（慣行）1.0 単位

また、4.2me/l では栽培用ロックウールにマグネシウムが集積することからマグネシウム濃度は 3.2me/l 程度が適当と考えられます。

さらに、単肥配合で栽培後期に濃度を下げることによる低コスト化も検討しています。



注) 0ヶ月耕・定植日：2002年9月17日、栽植密度：畦幅180cm、株間40cm、1条植え・主枝2本・調査期間：2002年10月23日～2003年6月30日



単肥 1.0 単位 (Mg 3.2me/l)
〔土壌肥料科 飯田佳代〕